

平成 22 年 6 月

## 需要減と原材料高に直面する印刷インキ業界

印刷インキ工業連合会

印刷インキ業界は、急激にインキ需要が減少する中で原材料価格が再び上昇するという厳しい経営環境を余儀なくされています。平成 20 年秋以降、世界同時不況の影響から国内外の急激な需要減に見舞われる一方で、今年に入って印刷インキの主要原材料価格が上昇を始めており、需要減とコスト高の二重苦に直面しております。

まず、印刷インキの需給動向の実態をみますと、平成 21 年における印刷インキ合計の生産量は 38 万 7,829 トンで 15 年ぶりに 40 万トン台を下回ったほか、出荷量も 43 万 7,462 トンで前年比 89%となり、平成 6、7 年の水準にまで減少しています。また、同年の出荷額は 2,963 億 5,100 万円で前年に比べて 366 億 5,300 万円下回り、平成 6 年以降、15 年間維持してきました 3,000 億円台を割り込んでおります。とくに、主要インキである平版インキは生産量、出荷量とも平成 17、18 年のピーク時に比べて約 3 万トン減少しており、平成 12 年頃の水準にまで減少、出荷額についても 965 億 300 万円と 17 年ぶりに 1,000 億円台を割り込みました。さらに、平版インキと同様に主要インキの一つであるグラビアインキも生産量が昭和 63 年以降初めて 12 万トンを下回り、出荷量も 14 年ぶりに 15 万トンを下回っているというのが現状です。

こうした急激な需要の減少は、景気後退に伴う印刷需要の落ち込みが最大の要因といえますが、それと同時に各企業の広告宣伝印刷物等の発注形態にも Web 広告への移行といった動きに見られるように大きく変化してきています。したがって、今後、消費の活性化や企業業績の向上等により景気が回復基調に入ったとしても、従前のように印刷需要が戻ってくる可能性は低く、数量的に印刷インキが回復することは難しいだろうと推測しております。

一方、印刷インキの原材料価格の推移につきましては、今年に入って溶剤関係を中心に上昇基調となっております。出荷量ベースで印刷インキ全体の約 7 割を占めます平版インキ・グラビアインキ製品の主原料である溶剤・各種バインダ樹脂、有機顔料等々に多大な影響を与えるナフサは、昨年 4 月時点で 1kl 当たり 3 万 1,700 円でしたが、今年 1～3 月期平均で約 4 万 7,700 円にまで高騰しています。また、平版インキ用樹脂の主要原料であるガムロジンも、昨年 4 月時点で 1t 当たり 900～1,000 ドルでしたが、今年 3 月では 1,700～1,800 ドルにまで上昇しています。さらに、トルエンやインキソルベントなど主要溶剤に

つきましても、この1年間で11～25%上昇しており、この傾向は今後も続くものと予想されます。その他、鋼材の高騰により1キロ缶からドラム缶などの金属容器についても価格上昇は避けられない状況にあります。

このように平成17年頃から上昇してきました印刷インキの原材料価格は、20年秋のリーマンショック後、一部の原材料でやや下降したものの、全体的には高止まりの状態で推移していましたが、今年に入り再び上昇を始めているというのが実態です。私ども会員企業におきましては、こうした厳しい環境の中で経営総点検を実施し、各種事業及び工場等の集約や人件費抑制等々のコスト削減にできる限りの努力を続けておりますが、すでに限界に達しているというのが実情であります。

当工業会会員各社を取り巻く経営環境はこのような状況にありますが、今後とも一層の経営健全化を図るとともに印刷インキの安定供給を果たしてまいりたいと存じます。需要家の皆様におかれましては、インキ業界が直面しております今日の窮状をご推察いただきまして、ご理解賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

以上

注) 資料出所

①印刷インキ需給実績：経産省化学工業統計(平成21年確定報)

②原油・ナフサ等原材料価格：財務省通関統計

③溶剤価格：新聞報道